

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0990400020		
法人名	株式会社 ソフィールド		
事業所名	ウォームハート		
所在地	栃木県佐野市越名町188番地		
自己評価作成日	平成27年1月5日	評価結果市町村受理日	平成27年3月25日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/09/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成27年2月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

運営理念を実践する 1. 利用者様本位の質の高いサービスを提供する施設 2. 利用者様が生き甲斐を持ち安らかな生活が送れる施設 3. 地域に開かれた施設

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

市南部の田畑や住宅に囲まれた閑静な場所に位置している。事業所内はバリアフリー化に配慮され、床は木の温もりを活かしたフローリングで、リビングの南側に中庭やベランダがあり、自然採光や換気配慮され、ゆったりとくつろげるよう工夫されている。また、平屋建ての回廊作りで手すりが設置され、歩行運動などができるよう配慮されている。これまで培ってきた経験や料理・趣味など、利用者の残存能力を活かした活動に心がけ、日常の暮らしの中で一人ひとりがそれぞれの役割を担いながら生きがいを持ち、安らかな生活が送れるよう支援に努めている。さらに、事業所協力医の隔週の往診やかかりつけ医の協力など、介護と医療の連携が円滑に行われており、利用者や家族の安心感にも繋がっている。事業所の夏祭りに老人会や小学生・地域住民を招待する他、隣接の公民館で開催される地域行事や併設デイサービスセンターのレクリエーションに参加したり、訪問ボランティアとの交流や周囲の遊歩道の散歩時に近隣住民と会話するなど、地域との交流を深めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の運営理念として「利用者様本位の質の高いサービスを提供する施設」「生きがいを持ち安らかな生活を送れる施設」「地域に開かれた施設」を挙げており、職員のリーダーが毎日の朝礼で目標を掲げ理念の実践に日々努力している。	事業所独自の3項目の理念をリビングなどに掲示し、朝礼で再確認しながら月間目標に沿った日々の行動指針を定めている。職員は常に理念に立ち戻りながら日々の支援に当たっており、理念の意識付けと実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	隣接している公民館で開催される行事等には積極的に参加している。またホームにおいてはアコーディオンサークルやピアノ、フルートアンサンブル、よさこい踊りのボランティアの訪問がある。ほか夏祭りには町内の老人会員を招待している。	事業所の夏祭りに老人会や小学生・地域住民を招待したり、隣接の公民館で開催される演奏会等の地域行事や小学校の運動会に参加するなど、日常的に地域との交流に努めている。事業所を訪問する小学生やボランティアとの交流も積極的に行われ、利用者の楽しみの一つとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	界公民館に隣接していることもあり、老人が気軽に立ち寄ってもらえるように努めている。運営推進会議には地元を代表する人になっていただき、施設を理解してもらえよう努めている。パンフレットには地域の公民館、金融機関、医院、市役所等においてもらい周知を図っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2か月に一度開催しており、参加者は利用者代表、利用者家族、市議員、町会長、民生委員、公民館長、地域包括支援センター職員、消防団員で構成されている。利用者の状況やホームでの行事等の報告の他、運営に関して参加者から助言や意見を出してもらい、サービスの向上に卓立しているまた地域での情報交換としても役立っている。	利用者・家族・市議員・町会長・民生委員・公民館長・地域包括支援センター職員・消防団員・駐在所員を構成員として開催している。利用者の現況や取組状況を報告するほか、徘徊対策、終末期介護等の要望や地域情報を収集し、利用者への支援に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	施設長が月に数回、市担当者を訪問して、ホームの現状報告や情報交換を行っている。また市主催の研修会やフォーラム等への参加を積極的に行いながら、市担当者と連携を図り、サービスの向上に取り組んでいる。	日頃から電話連絡や市への訪問で、事業所の状況報告や運営に係る情報交換を行い、指導や助言を受けるなど、円滑な協力関係を築いている。また、市の研修会やフォーラム等に参加し、利用者のサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は一切していない。利用者が家で生活されているような、生き甲斐を持ち安らかな生活が送れるようにしている。	利用者の自由な行動を基本としており、毎月、全体会議で勉強会を行い、身体拘束をしない実践に取り組んでいる。また、友達口調で話さないなど言葉遣いはその都度注意している。日中は玄関を施錠せず、職員の見守りにより安全を確保している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	管理者が虐待チェックシートを作成している。朝礼で「倫理研究所」の本を輪読し、個々の職員の倫理観、人間力の向上に努めている。職員更衣室や事務室などには、虐待防止の貼紙を職員の意識向上を図っている。		

ウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社会福祉協議会、市等の研修に参加し勉強している。成年後見制度のパンフレットは置いてある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は管理者または生活相談員が各項目について説明している。また、入所の前に必ず施設を見学していただき、納得した上で契約、入所していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議には利用者、利用者の家族代表に出席していただき、意見をお聞きしている。また利用者の家族の来訪の際に、利用者や家族との会話の中に施設の問題点がないかよくお聞きし、運営の改善に努めている。	運営推進会議で利用者・家族の意見や要望を聞いている。また、家族の来所時に会話する機会を設け、運営やサービス状況についての意見交換を行い、その内容を受付ノートに記載し、全職員で共有している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	介護委員会、レクリエーション委員会、給食委員会の各委員会や全体会議を設け職員の意見や提案を運営者や管理者に伝えるようにしている。	毎月の全体会議や各種委員会で職員の意見や提案を聞く機会を設け、管理者と職員の意思疎通が図られている。また、菓の仕分けや食事の際の座席の位置等日頃のケアで発見した気付きや提案などを基に会議で話し合い、サービス向上の実践に活かしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎朝の朝礼で本人の目標を発現させ、やりがいと責任感を持たせている。運営者は職員の個人的な悩み等をできるだけ察知し、相談にのっており、退職者はいない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	朝礼にて「倫理研究所」の冊子を輪読し、個人の倫理観、道徳観を向上させ、利用者に対するサービス精神、人間性の尊重の精神を養っている。又ケアマネージャーを講師として職場内勉強会を開き、社外研修にはできるだけ参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の介護施設運営者の中で、特に親しく交流している施設が数施設あるが、特に認知症デイサービス施設とは時々勉強会を開いている。		

ウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族と本人から、本人の個人的な情報をお聞きし、把握すると共に、利用前には必ず数回信頼関係ができるまで訪問して頂くとともに、体験して頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族には施設を理解していただけるまで羅索していただき、お話を伺い現状把握に努めている。又利用した場合の最良の介護の方策を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族と、施設で話し合いし、利用者がどこの施設が良いのか、ケアマネージャーと一緒に相談にのっている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理の作り方や、味付け等を教えて頂いたり、食事の準備や後片付け、洗濯物たたみ等できることはして頂いたり、一緒に行っている。ピアノの上手な方に弾いて頂き利用者の皆様が教えていただき、食事やお茶の時間は一緒に過ごし、コミュニケーションを大切に支えあう関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が来訪の際は、本人の現況、施設としての対処の仕方を報告している。又本人が家族に話した悩みや相談には積極的に対応し、本人が生き甲斐を持ち、安らかな楽しい生活ができるよう努力している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	医者は本人のかかりつけ医院にしている。又レクリエーションで外出する際は、できるだけ本人の馴染の深い場所等へ行くなどしている。友人等の来訪は家族以上に歓迎するように気を遣い、再来訪をお願いしている。	一人ひとりのこれまでの生活歴や馴染みの場所などを整理し、職員で共有を図りながら日々の支援に努めている。馴染みの美容院への送迎や地元のカフェなどに出掛けたり、友人等の訪問を支援するなど、これまでの交友の継続支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が仲良くできるよう、食事などの席、レクリエーションの仕方等すべてにわたって配慮している。デイサービスの利用者とも楽しく触れ合う機会を設けている。		

ウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用を止めた方には家族から現況を聞くとともに、相談に応じている。又移った施設の管理者等から現況を聞いたり、訪ねて行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者が自分の希望する生活ができるよう本人・家族から聞き取り、それに沿うようにしている。利用者の情報は、申し送りノートや口頭により、全職員間で情報の共有ができる仕組みになっている。	「鉄火丼が食べたい」「編み物をしたい」などの利用者の具体的な希望や日頃の生活の中から見出した情報を申し送りノートなどで共有し、支援に努めている。把握が困難な時は、家族や職員間で話し合い、本人の意向に沿えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	今までの経過や問題点を職員一人一人が把握しやすくする為に個人ファイルを設け、現場に置いていつでも記入したり見られるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	食事、排便尿、血圧、体温等の記録をこまめにとるようにしている。又職員全員が把握しておくべき事は記録ノートに作り活用している。利用者別に発見報告書を作り、日々の状況を把握している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員が参加する全体会議で、職員の意見を参考して、ケアマネージャーが中心となり介護計画を作成している。又、協力医やかかりつけ医師からの意見なども取り入れながら作成している。	本人や家族・かかりつけ医・協力医の意見を取り入れながら、全体会議で意見を交換し計画を作成している。また、日頃から利用者の日常生活や健康状態を観察し、身体状況が変化した時や半年毎に計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人記録は時系列で記載し、対応に役立っている。毎朝、一日の利用者個人個人の介護の注意すべき点、やらなければならないことの打ち合わせをしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	少人数でもあり、なるべく利用者本人の希望に応じて柔軟な支援をしている。散歩 医療機関の受診、外食、ドライブ等、その時々希望や要望に応じて支援している。		

ウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	いつも利用していた美容院を利用するときは、送迎をしていただき、お昼にかかるときは昼食をごちそうになる時あり、今までの関係が続いている。地域のヤクルト販売員に月1回きていただき、好きなものを選んで購入している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者本人の希望を聞き、出来るだけ今までのかかりつけ医の診療を受けている。家族の対応が困難な場合は、事務長を中心に付き添いしている。施設の提携医の往診が隔週ごとにあり、医療的な指導を仰いでいる。	従来からの内科、歯科、眼科等のかかりつけ医の受診を支援している。通院の付き添いは主に職員が行っており、受診結果や健康状態などを家族と共有している。協力医の往診が隔週に行われ、急病の時には対応していただいている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が勤務し、専門的な立場から、日常の健康管理や医療活用の支援を受けている。又提携医の看護職員に相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	医師会病院が提携医であり、相談にのってもらっている。家族とのコミュニケーションを密にし、入院した時には、時々見舞って、病状の把握に努めている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時、退去にあたっての条件として、長期入院が必要な場合、共同生活が困難になった場合を重要事項説明書に明記し、入居者・家族に納得していただいている。生活活動動作の低下や認知症の症状の進行によりホームでの生活が困難になった場合は、かかりつけ医に相談するとともに、家族に報告相談し、ほかの施設を探したり、医療施設への移行をお願いしている。	重度化した場合や終末期に向けた事業所の方針を説明し、本人や家族と話し合いながら対応を共有している。事業所での生活が困難になった時は、家族、かかりつけ医や協力医と相談し、意見のすり合わせを行い他施設や医療機関への住み替えを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	応急手当や救急車を呼ぶなどの初期対応訓練を行っている。又応急手当のマニュアルを常に見える所に置き勉強している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	運営推進委員に地域の町会長・市議員・民生委員・消防隊員の方になっていただき 日頃より協力者作りをしている。避難訓練は三か月に1回、利用者がホームの駐車場に避難する訓練を行っている。又消火器の点検・緊急時の通報訓練も行っている。	消防署の指導による年2回の避難訓練を実施する他、3か月毎に職員と利用者が参加した避難誘導訓練を行い、安全・迅速な避難方法を身につけている。災害に備えた食料や飲料水の備蓄も行っている。	消防署指導の避難訓練や事業所独自の訓練を行っているが、更に職員が安心して夜間業務に従事できるよう、夜間想定訓練実施を行うとともに地域の方に連絡網に入って貰うことや避難訓練の参加等について検討することを期待したい。

ウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者は家族の希望により、居室の入り口に表札をかけている。コミュニケーションを取る際には、職員は「～さん」と呼び傾聴の姿勢を大切にしている。朝礼の際にも、利用者の尊厳などの精神的な指導を徹底して行っている。個人の記録は通常は現場に置いているが、記録済のものは事業所の鍵のかかる部屋に保管している。	朝礼で利用者の尊厳を確認し合うなど、人格の尊重やプライバシー確保の重要性を理解しながら日々の支援に当たっている。支援を行うときは、一人ひとりの気持ちを大切に考え、友達のような言葉遣いにならないようにするなど言葉かけには十分配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の日常の変化に敏感に対応し、出来るだけ本人の希望に添えるように対応している。どんなことでも利用者本院の気持ちを尊重し、納得していただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	食事・入浴・就寝・外出など、一人一人のペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援し、職員は出来るだけ利用者が自由にできるように柔軟に対応するのが基本と考えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理美容室は馴染みの店がある人には都合に合わせて通って頂き、その他の人は希望日に理美容室にホームに来てもらい、カット・パーマ・カラー等希望に沿って支援している。服装は毎日着替えている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	栄養バランスや旬の味を大切にしながらパン食や雑炊など変化を楽しんでいただいている。味付けや下ごしらえ、盛り付け、食器洗い、片づけ等利用者は積極的に参加している。	利用者の希望を聞き、栄養バランスや変化のある献立を作成し、旬の食材や事業所の家庭菜園で採れた大根、ナス、トマトなども活用している。利用者もできる範囲で味付けや盛り付け・後片付けに参加し、職員も利用者と同じテーブルで会話しながら食事を楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士資格を持つ職員が中心となり、旬の野菜や魚を中心にバランスのとれた一日1500kcal前後の献立を考えている。利用者によっては流動食・お粥等臨機応変に対応している。一日1,500mlの水分を取るようにし、それぞれの摂取量は個別に記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯の人は夕食後洗浄液に浸けている。自分で歯磨きのできない人には職員の介助にて口腔内の清潔を保っている。		

ウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	なるべくトイレで排泄できるよう、一人一人の排泄パターンを把握し、また習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している。夜間は2時間おきに見守り、その人にあった支援をしている。	一人ひとりの排泄パターンを把握し職員間で共有している。利用者の様子を敏感に察知しながら、さりげない言葉かけでトイレに誘導し、自立した排泄を支援している。夜間も定期的に見守り、できる限りトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日中はできるだけ運動をしたり散歩したりと体を動かすようにしている。食事は消化のよい献立を心がけ、キノコなどは毎日、ヨーグルトは週2回摂取するようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者の希望の時間や回数にそうように支援している。色々な入浴剤を使用し、入浴を楽しめるように支援している。	利用者の希望を確認し、週2回の入浴を支援している。毎日の入浴希望や通常時間帯以外の希望にもできる限り対応している。各種の入浴剤や菖蒲湯・柚子湯など、入浴を楽しめるよう支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼はレクリエーションに参加したり、散歩をしたりしてできるだけ身体を動かし、夜気持ちよく眠れるようにしている。休息したい時間に休息してもらい、快眠できるように室温調節をして支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりが服薬している薬の効能については、しっかりと勉強し、医師からの用法・用量・注意事項は徹底し、服薬後の利用者の変化には十分に注意を払っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	職員は日頃の見守りを通して、一人ひとりの得意な事や好きなことを把握しており、折り紙や習字、ピアノ、調理、ドライブ、外食等一人ひとりが参加できるように役割や楽しみごと、気晴らしの支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、ホームの庭や周辺への散歩にかけ、気分転換やストレス発散等ができるように支援している。買い物なども希望に沿って柔軟に対応している。1か月に1回は外食に出かけ、利用者にメニューから好きなものを選んでもらい注文する等の支援をしている。	周辺の遊歩道の散歩や買い物など、希望に応じた外出を支援している。また、みかも山やフラワーパークへのドライブなど、季節に応じた遠出も楽しんでいる。毎月1回は外食に出掛け、一人ひとりが好みの料理を注文するなど、気分転換を図っている。	

ウォームハート

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には1万円を家族より預かり事務所で管理している。買い物に行った時には預り金の中から自分で払ってもらっている。お金の管理ができる利用者には、別に自分で管理してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者が家族や知人と話をしたい時には、本人自ら電話してもらっている。手紙は施設あてに利用者の家族や友人・親戚から届いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホームの間取りはゆったりとした配置になっており、リビングに面した中庭から自然採光が入り、季節感を感じる明るい空間を作り出している。トイレは4か所に設置され、使いやすくなっている。	ホールや廊下は木の温もりを活かしたフローリング床暖房で、自然採光や換気に配慮がなされ、ゆったりとくつろげるよう工夫されている。リビングには書道・塗り絵などの利用者の作品や行事写真が展示され、ゆとりのある間取りで落ち着ける生活空間となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファやテーブルを配置するとともに、和室を設け気の合った利用者同士が一人ひとりを楽しめるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には利用者が使い慣れた馴染のものを自由に持ち込んで頂き、家族の写真等も飾って、自宅と同じような部屋作りをして、居心地良く過ごして頂いている。	常備されている洗面台やエアコン・カーテンの他、本人や家族と相談しながら利用者が違和感を感じないよう、馴染みの寝具やタンス・生活用品などを持ち込む他、家族の写真などを飾り居心地よく過ごせるようにしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物は平屋建てで、木材を使用し、全館バリアフリーにし、手すりをつけて自立した歩行ができるようになっている。ホームの中心に中庭があり、四季の景色を眺めながら、廊下を回って散歩できるようになっている。		